

東京医学会

東京医学会 第 2641 回集会

日時：平成 26 年 6 月 5 日（木） 13：00～14：00

場所：医学部総合中央館(医学図書館)3 階 333 会議室

演者：山田 泰広 博士

(所属) 京都大学 iPS 細胞研究所 (CiRA) 初期化機構研究部門
物質-細胞統合システム拠点 (WPI-iCeMS)

演題：iPS 細胞作製技術を用いたがん研究

紹介： 人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) は再生医療への応用において大きく期待されていますが、疾患特異的 iPS 細胞の作製により、疾患メカニズムの解明や創薬にも応用可能であることが示されています。体細胞が無限の細胞増殖能を獲得することは iPS 細胞樹立過程と発がん過程の両者において必須であることから、iPS 細胞樹立と発がんには共通点が観察されます。山田先生はこれまで iPS 細胞作製技術をがん細胞の理解ならびに、がん細胞の制御に応用しようとするという画期的な取り組みを行ってきました。本セミナーでは、大腸腫瘍細胞からの iPS 細胞作製および再分化の実験結果を示し、遺伝子配列異常を有した腫瘍細胞の可塑性について紹介して頂くとともに、生体内細胞初期化による腫瘍発生モデルについて最新の知見を紹介し (下記論文)、幹細胞性獲得と発がんの接点について議論して頂きます。今回は博士の講演を拝聴できる貴重な機会ですので、どうか奮ってご参加ください。

Ohnishi K, Semi K, Yamamoto T, Shimizu M, Tanaka A, Mitsunaga K, Okita K, Osafune K, Arioka Y, Maeda T, Soejima H, Moriwaki H, Yamanaka S, Woltjen K, Yamada Y. Premature termination of reprogramming in vivo leads to cancer development through altered epigenetic regulation. *Cell*. 156: 663-77, 2014.

主催：東京医学会

共催：分子病理学 教室

新学術領域研究「がん微小環境ネットワークの統合的研究」